

平成 26 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 あかつきフィナンシャルグループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 島 根 秀 明
(コード 8737 東証第2部)
問合せ先 取締役執行役員社長室長 川中 雅浩
(TEL 03-6821-0606)

平成26年3月期第3四半期業績と前年同四半期業績との 差異に関するお知らせ

平成 26 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)の業績が、前期の平成 25 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間(平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)の業績に対して、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期第 3 四半期業績と前年同四半期業績との差異

(単位：百万円、%)

	営業収益	純営業 収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成 25 年 3 月期第 3 四 半期連結累計期間 (A)	2,347	2,185	118	685	645	116 円 05 銭
平成 26 年 3 月期第 3 四 半期連結累計期間 (B)	4,462	4,140	1,022	1,439	1,282	215 円 80 銭
増減額 (B-A)	2,111	1,955	904	754	637	104 円 70 銭
増減率 (%)	90.1	89.5	766.1	110.0	98.6	90.2

(注)当社は平成 25 年 1 月 10 日付で普通株式 10 株につき 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益金額を算定しております。

2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間(平成 25 年 4 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日まで)における我が国経済は、金融緩和策や各種経済対策の効果により、回復に向けた動きが続きました。また、円高の是正や米国・欧州経済の改善を背景に輸出が持ち直すなど、底入れ感が強まりました。

株式市場におきましては、期首に 12,000 円台で始まった日経平均株価は、4 月に公表された日銀の異次元の金融緩和策を受けて円安が大きく進行し、株価は上昇を続け 5 月下旬に 16,000 円に迫る展開となりましたが、その後は調整局面となり、概ね 13,000 円から 15,000 円のレンジで推移しました。9 月には 2020 年夏季五輪の東京開催が決定したことや消費増税実施による経済対策への期待感などから投資マインドが改善するなか、株式市場は底堅い動きとなりました。

その後 11 月に入り、米国の景気回復を背景とした米国株高や為替の円安進行により、日経平均株価は上昇基調を強め、12 月末の終値は 16,291 円 31 銭で取引を終了しました。

このような市場環境の中で、当社グループの中核会社であるあかつき証券(株)におきましては、市況の変化に合わせて外債販売を中心とした営業戦略から、株式・投信を中心とした営業戦略への転換を進め、5月より新たに外国株式の取り扱いを開始することにより機動的な商品提供を行ってまいりました。また、IFA（金融商品仲介業）ビジネスの提案等の法人ビジネスの強化にも取り組み、収益の多様化を図りました。

加えて、前連結会計年度に連結子会社としたドリームバイザー・ホールディングスグループが提供する投資関連情報等を使用するなど、対面営業の更なる強化を図りました。

以上の結果、当社の連結子会社であるあかつき証券(株)の当第3四半期連結累計期間の業績は、受入手数料2,650百万円（前年同四半期比135.0%増）、トレーディング損益1,149百万円（同25.9%増）、営業利益1,350百万円（同552.9%増）、経常利益1,397百万円（同571.1%増）、四半期純利益1,126百万円（同475.8%増）となりました。

また、当社グループの当第3四半期連結累計期間の営業収益は4,462百万円（同90.1%増）、営業利益は1,022百万円（同766.1%増）、経常利益は1,439百万円（同110.0%増）、四半期純利益は1,282百万円（同98.6%増）となりました。

以 上